



臨-22 右腕の挙上障害のある患者の痛む姿勢



臨-23 右腕の挙上障害のある患者への刺針

3 | 僧帽筋・胸鎖乳突筋の特殊な刺し方

1. 僧帽筋の刺し方

僧帽筋(基-69)は、上肢の運動をするときに、肩甲骨を動かす大事な筋肉で、上背部の大部分を占めている。この筋肉は、後頭骨から全頸椎～全胸椎の棘突起に始まり、肩甲骨と肩峰に付着して、全体として菱形をなしている。

この筋肉は精神的な緊張の影響を受けやすく、僧帽筋は硬結を作り、圧痛を伴うことが多い。このような肩こりがあるときは、僧帽筋に直接刺針してやると症状はずいぶん改善する。僧帽筋の刺針方法は、伏臥位で第7頸椎から肩甲骨上部に分布する水平になった部位に刺針する。写真(臨-24)のように、左手の第2指と第3指で僧帽筋をつまみ上げ、親指と第2指で針を支えて刺針する。僧帽筋を後ろから前方に串刺しにすると肺を破らず安心して刺針できる。刺入すると、ときにピクッと僧帽筋の一時的な痙攣が起こることがある。これはよく効くサインであるので心配しなくてもよい。

2. 胸鎖乳突筋の刺し方

精神的な緊張によって、胸鎖乳突筋はしばしば圧痛硬結を起こす。前頸部のこりとして、患者はしばしば苦痛を訴えることがある。イラスト(基-72)のように胸鎖乳突筋には、胃経・大腸経・小腸経と三焦経が絡んでいるので、これらの経脈の異常が胸鎖乳突筋にも影響し、胸鎖乳突筋の経筋病巣を起こしやすいと考えられる。



臨-24 僧帽筋の刺し方。示指と中指とで僧帽筋をつまみ上げる。

